

ラジオ放送と受信機

－ 日本のラジオ放送開始100年を記念して －

日本では1925年に、東京放送局がJOAKで、大阪放送局がJOBKで、名古屋放送局がJOCKで、それぞれ放送を開始したのが最初で、今年2025年で100年になります。

展示プラン

第 1 章 ラジオ放送を可能にした先駆者達 — 2 (詳細は別途 サブ展示プランにて)	第 4 章 国際放送 (続き)
	4. 4 ロシアの国際放送 ————— 35
	4. 5 その他の国々の国際放送 ————— 35
	4. 6 国際放送の政治的利用 ————— 36
第 2 章 放送の秩序と管理	第 5 章 ラジオ受信機とラジオメーカー
2. 1 国際電気通信連合 (ITU) ————— 15	5. 1 初期のラジオ受信機 ————— 37
2. 2 日本の管理組織 ————— 16	5. 2 ヨーロッパのラジオメーカー ——— 41
第 3 章 ラジオ放送の始まり ————— 17 (詳細は別途 サブ展示プランにて)	5. 3 日本のラジオメーカー ————— 42
第 4 章 国際放送	第 6 章 ラジオ放送の受信
4. 1 日本の国際放送 ————— 33	6. 1 ラジオ受信の啓蒙 ————— 43
4. 2 米国の国際放送 ————— 34	6. 2 受信料金の徴収 ————— 44
4. 3 中国の国際放送 ————— 34	6. 3 ラジオを聴く人々とベリーカード — 45



大阪放送局JOBKの放送開始1周年記念絵はがき 大正15年6月1日

第1章 ラジオ放送を可能にした先駆者達

電磁気学などの基礎研究や実験による、種々の発見や発明から無線通信の基礎を築いて、ラジオ放送を可能にした先駆者達を紹介します。

サブ展示プラン

第1章 ラジオ放送を可能にした先駆者達

1. 1	ルイーゼ・ガルヴァーニ (1737-1798)	2
1. 2	アレッサンドロ・ボルタ (1745-1827)	3
1. 3	マリ・アンペール (1775-1836)	3
1. 4	カール・フリードリヒ・ガウス (1777-1855)	4
1. 5	マイケル・ファラデー (1791-1867)	4
1. 6	ヘルマン・フォン・ヘルムホルツ (1821-1894)	5
1. 7	グスタフ・ロベルト・キルヒホッフ (1824-1887)	5
1. 8	ジェームズ・マクスウェル (1831-1879)	6
1. 9	エドアール・ブランリー (1844-1940)	6
1. 10	トーマス・アルバ・エジソン (1847-1931)	7
1. 11	リー・ド・フォレスト (1873-1961)	7
1. 12	ギュスターヴ・フェリエ (1868-1932)	7
1. 13	アドルフ・スラビー (1849-1913)	8
1. 14	ニコラ・テスラ (1856-1913)	9
1. 15	ハインリヒ・ヘルツ (1857-1894)	10
1. 16	アレキサンドル・ポポフ (1859-1906)	11
1. 17	ガブリエルモ・マルコーニ (1874-1937)	12
1. 18	レジナルド・フェッセンテン (1866-1932)	13
1. 19	エドウィン・アームストロング (1890-1954)	14
1. 20	ジョン・バーテン (1908-1991)	14

1.1 ルイーゼ・ガルヴァーニ (1737-1798)

イタリアのボローニア出身の医師であり、物理学者であったガルヴァーニは、1780年に蛙の生体から生じる電気を発見、電気の基礎を築くのに貢献しました。ガルバニ電池や、ガルバノメーター(検流計)などに名前が残っています。



1.2 アレッサンドロ・ボルタ (1745-1827)

イタリア北部のコモ出身の物理学者ボルタは、1800年にガルヴァーニの動物電気の反証として、一定の電流を流す初期の電池であるボルタ電池を発明しました。1881にボルタを記念し、電圧の単位をボルト(V)とすることが決まりました。



1.3 マリ・アンペール (1775-1836)

フランス中南部のリヨン生まれのアンペールは、電気磁気学、電気力学の基礎を築きました。アンペールは1820年に電流と磁界の方向を示す右手の法則や左手の法則を発見するなどの功績により、電流の単位はアンペア(A)とされています。



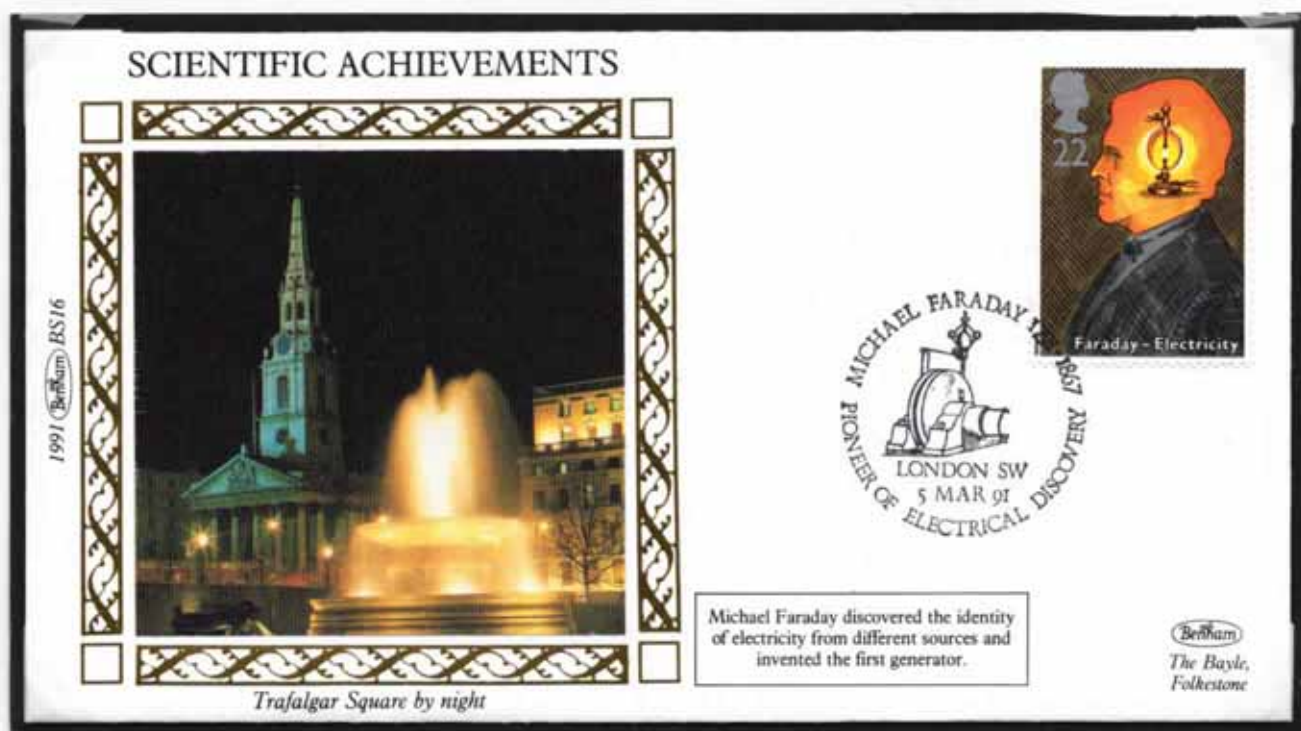
1.4 カール・フリードリヒ・ガウス (1777-1855)

ドイツの数学者、天文学者、物理学者であるガウスの研究は広範囲に及び、特に近代数学の分野に影響を与えました。また電磁気学のガウスの法則などに名が残っています。磁束密度のCGS単位ガウス(G)は、このガウスに因んでいます。



1.5 マイケル・ファラデー (1791-1867)

英国の化学者であり物理学者であるファラデーは、電磁気学及び電気化学分野の貢献で知られています。物理学の電磁場の基礎理論を確立、それを後にマクスウェルが発展させました。ファラデーの電磁誘導の法則などに名が残っています。静電容量の単位ファラッド(F)は、ファラデーに因んでいます。



1.6 ヘルマン・フォン・ヘルムホルツ (1821-1894)

ドイツの整理学者、物理学者で、多くの弟子を輩出した。ハインリッヒ・ヘルツもその一人で、ヘルムホルツの指導の下、電気力学の研究を行い、後に電磁波の存在を証明した。



1.7 グスファ・ロベルト・キルヒホッフ (1824-1887)

ドイツの物理学者で、学生時代にオームの法則を拡張した電気法則を提唱。1849年にキルヒホッフの法則を纏め上げた。この法則は電気工学において広く応用されている。



1.8 ジェームズ・マクスウェル (1831-1879)

英国、スコットランド生まれの物理学者であるマクスウェルは、ファラデーによる電磁場理論をもとに、1864年にマクスウェルの方程式を導いて古典電磁気学を確立し、電磁波を予言しました。磁束のCGS単位マクスウェル(Mx)は、このマクスウェルに因んでいます。



1.9 エドアール・ブランリイ (1844-1940)

フランスの物理学者であるブランリイが、1890年に発明したコヒーラ検波器は、初期の無線電波受信用の検波器として使われました。



1.10 トーマス・アルバ・エジソン (1847-1931)

米国の発明家エジソンは、1877年に炭素粒マイクを発明した他、1879年には白熱電球を発明し、後に真空管の基礎となるエジソン効果の発見に寄与しています。



1.11 リー・ド・フォレスト (1873-1961)

米国の発明家であり、電気・電子技術者のド・フォレストは、1906年、2極管に第3の電極グリッドを入れた電気信号を増幅できる3極管オーディオンを発明した。



1.12 ギュスターヴ・フェリエ (1868-1932)

フェリエ将軍で知られるフランス人フェリエは。士官学校を出て技術将校として陸軍に任官後、海軍技術将校となり無線機を搭載し、世界を航海してエッフェル塔の長波電波が地球上のどこまで受信可能かを調べたラジオ放送のパイオニアです。



1.13 アドルフ・スラビー (1849-1913)

ドイツ・ベルリン生まれの電気の先駆者であるスラビーは、1886年からベルリン技術大学の電気技術の教授を務めていました。スラビーは英国の郵政長官であるウィリアム・ヘンリー・ブリスと個人的な友人関係であったため、1897年にマルコーニのイギリス海峡横断の無線通信実験に立会う機会を得て、即座にこの発明の重要性に気づき、ベルリンで無線通信の実験を繰り返して、主要な働きと技術的な理論概念を導き出し、電磁気誘導アンテナを使って通信距離を延ばしました。



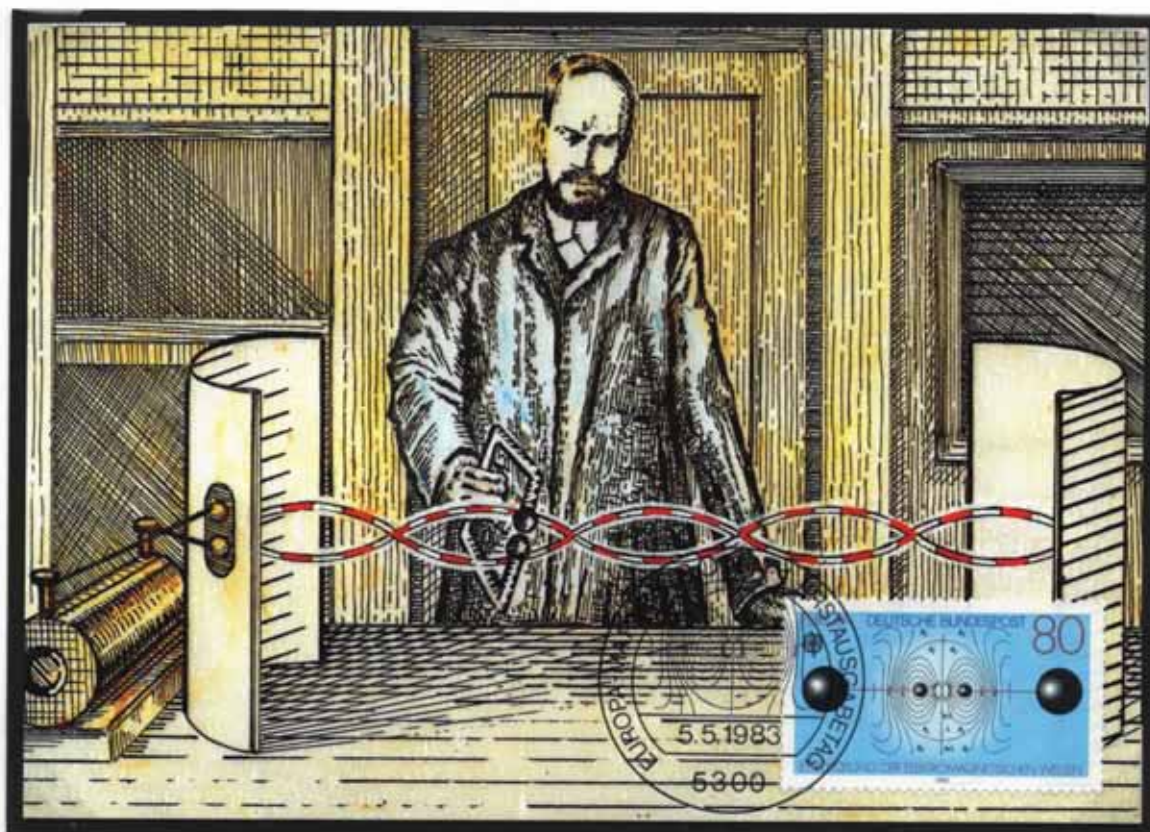
1.14 ニコラ・テスラ (1856-1943)

セルビア人の電気技師で発明家のテスラは、1882年に誘導モーターの開発に成功し、1884年の渡米後も、1891年に高圧変圧器を発明したり、1898年には無線操縦の特許を取得し、無線操縦の船舶模型を実演するなど、多くの実績を残しています。磁束密度のSI単位であるテスラ(T)は、ニコラ・テスラに因んでいます。



1.15 ハインリッヒ・ヘルツ (1857-1894)

ドイツの物理学者ヘルツは、マックスウェルの電磁気理論を更に発展させ、1888年に、電磁波(電波)の存在を初めて実証しました。周波数の単位ヘルツ(Hz)は、このハインリッヒ・ヘルツに因んでいます。



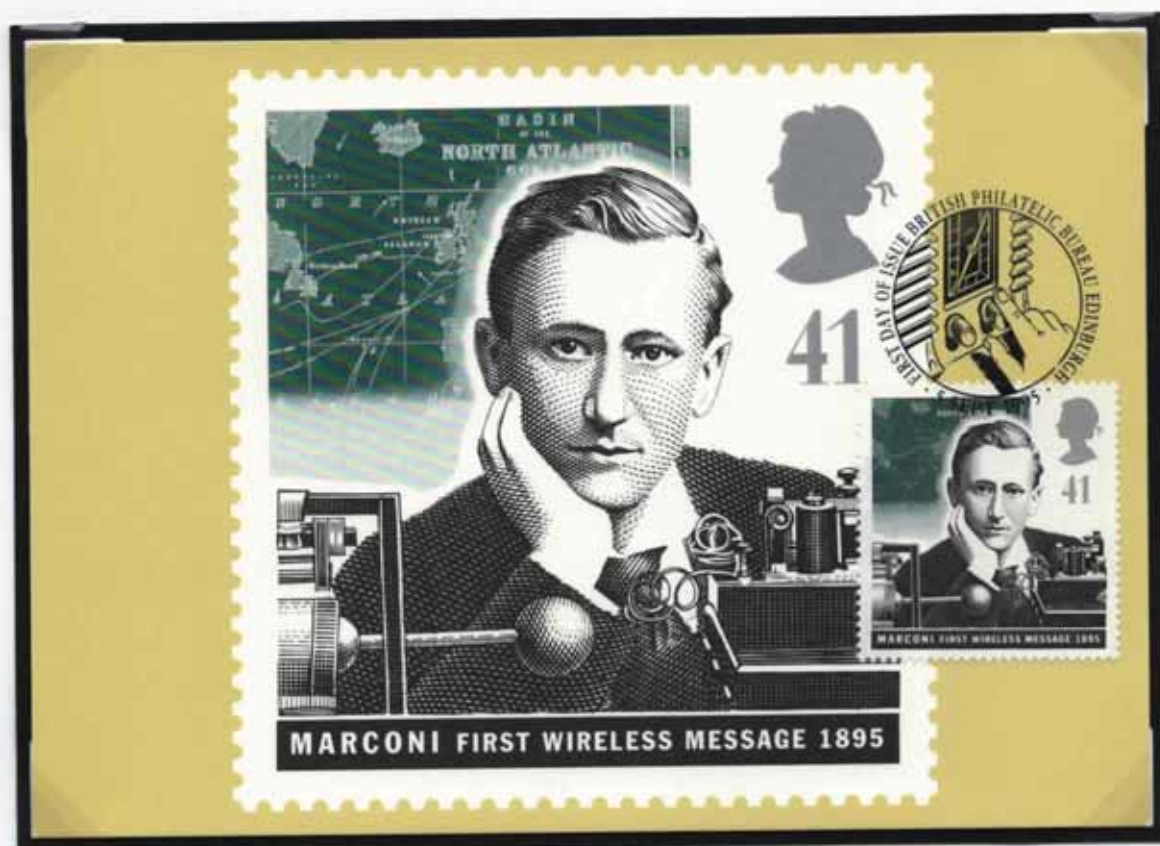
1.16 アレキサンドル・ポポフ (1859-1906)

ロシアの海軍兵学校の物理学教授であったアレクサンドル・ポポフは、1895年に雷の研究からヒントを得て、アンテナを使用した無線通信を発明しました。同時にマルコーニも特許を出願していますが、ポポフの公開実験はマルコーニが成功した実験より4ヶ月ほど早かったそうです。



1.17 ガブリエルモ・マルコーニ (1874-1937)

発明家グリエルモ・マルコーニは、イタリアで生まれで、父はボローニアの銀行家、母はアイルランドの富豪の出で、1888年の夏一家はアルプスで避暑をしていました。そこで14歳のグリエルモ少年は、科学雑誌でヘルツが電磁波の存在を証明したという記事を読み、電線が無くても通信ができるのではないかと考えました。彼は家庭教師役のボローニア大学ケーキ教授の助けを得ながら電波発信装置と受信機の製作に没頭し、1895年21歳の時に実験を成功させました。翌年英国に渡り、1897年に無線通信の特許を取得しました。



1.18 レジナルド・フェッセンデン (1866-1932)

カナダの発明家フェッセンデンは、1900年にスーパーヘテロダインの原理を発見した他、回転式高周波火花送信機を使った音声信号の送信実験を行っています。その後1906年には交流発電式送信機を使って音楽などの放送実験を行っていますが、これらは、音声や音楽の電気信号で高周波の振幅を変化させる振幅変調 (AM) でしたので、フェッセンデンは振幅変調 (AM) の発明者と言われています。



1.19 エドウィン・アームストロング (1890-1954)

米国の研究者・発明家エドウィン・アームストロングは、ニューヨークのコロンビア大学で学び、後に同大学の教授となりました。1914年には再生回路、1918年にはスーパーヘテロダイン方式、1922年には超再生回路の特許を取得しました。その後周波数変調(FM)を発明し1933年に特許を得ています。



1.20 ジョン・バーデン (1908-1991)

米国の物理学者であるジョン・バーデンは、1938年からミネソタ大学の助教授を務めた後、1945年にベル研究所に入り、ショックレーらとトランジスターの開発に成功し、1956年にその功績によりノーベル賞を受賞しています。



第2章 放送の秩序と管理

ラジオ放送の電波は国境を越えて伝播するので、その秩序を守るため国際的な取り決めとその管理が必要となります。無線通信が始まる以前の1865年に、ヨーロッパの国々がパリで「万国電信連合」を設立していましたが、その後無線の時代が始まり、国際的な混信などの課題を解決し秩序を維持するため、1908年に日本を含む30ヶ国が参加して「国際無線電信連合」が発足し、1932年に両者が合併しています。

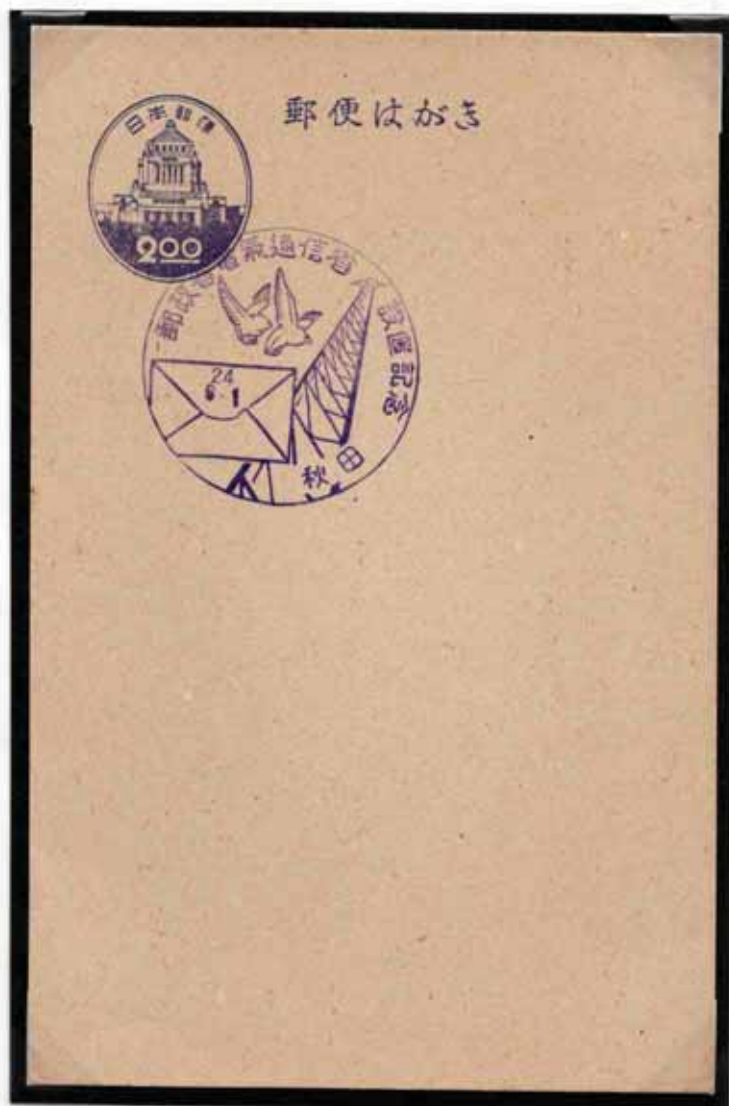
2.1 国際電気通信連合(ITU)

1947年に国連(UN)の専門機関となった、国際電気通信連合(ITU)は世界で最古の国際機関です。ITUは英語表記での略称で、フランス語表記ではUITです。日本は1879年に加盟したとして、1954年にITU加盟75周年記念切手を2種発行しています。10円切手には国際電気通信連合憲章を刻んだモニュメントが描かれています。この憲章に基づいて秩序を保つため、各国の標準や規則が作られています。



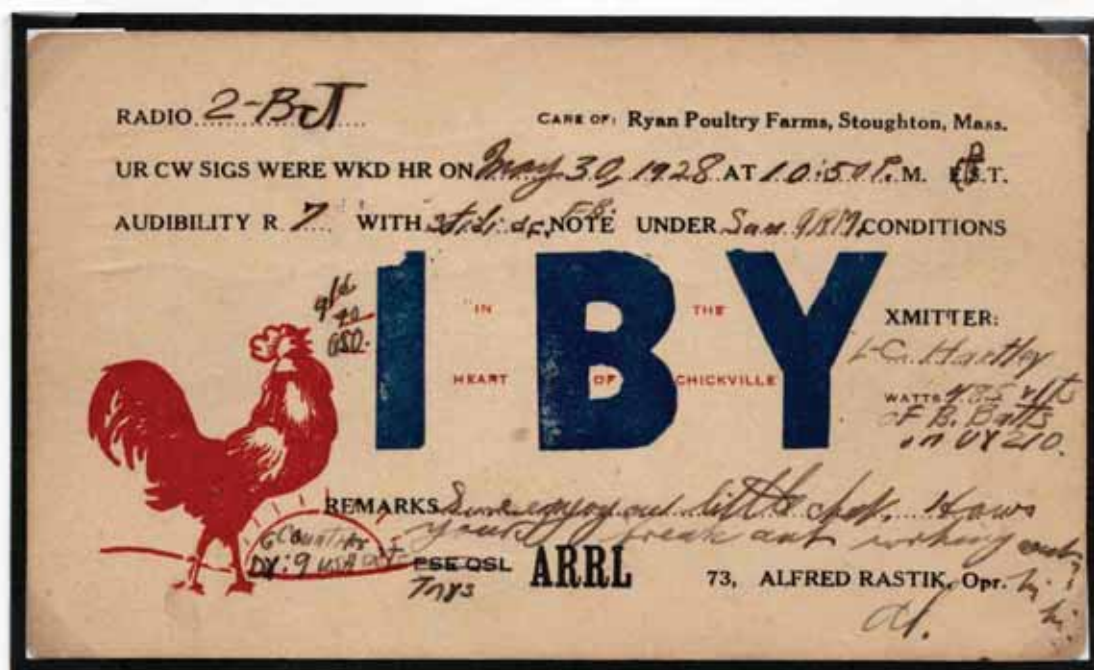
2.2 日本の管理機関

日本の管理機関であった逓信省が、1949年6月1日に二省に分割されて、郵政省と共に電気通信省が設置されました。この時に記念切手が発行されています。そして後種々変遷の後、1952年8月1日に電気通信省は廃止されて、電気通信監督行政や電波監理行政は郵政省が引き継ぎました。そして2001年1月6日、中央省庁再編により、ラジオ放送の免許や管理行政は総務省の管轄になり、電波法や放送法などによって管理されています。



第3章 ラジオ放送の始まり

世界で初めての正式なラジオ放送は、米国のピッツバーグでウェスチングハウス社が1920年11月2日に始めた商業放送局の KDKA です。同社の技士フランク・コンラッド(1894-1941)が1918年に第1次世界大戦が終わると、アマチュア無線局 8XK を再開し、傍受されることを前提にした定期的な放送を始めたのがきっかけでした。



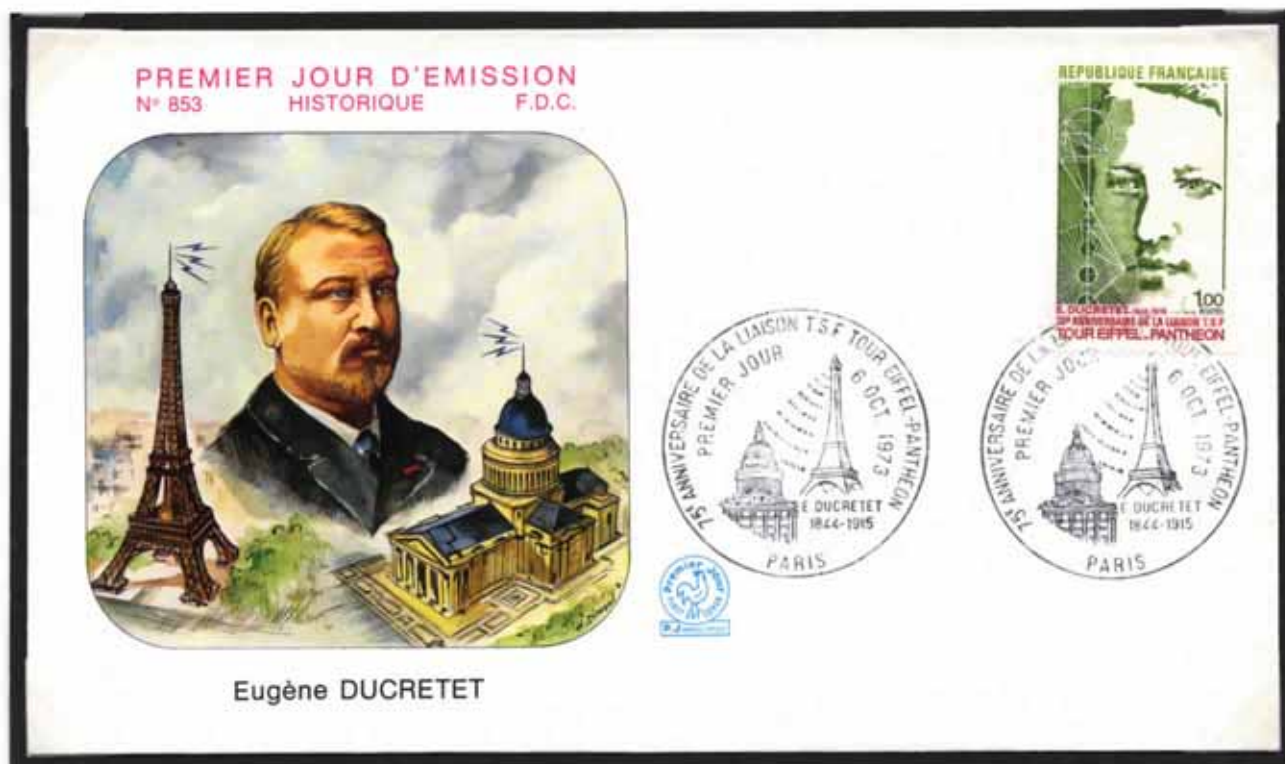
1920年代の米国のアマチュア無線局 1BY のQSLカード(交信証)

サブ展示プラン

第3章	ラジオ放送の始まり	17
3. 1	フランスの放送局 (1921)	18
3. 2	英国の放送局 (1922)	19
3. 3	チェコスロバキアの放送局 (1923)	20
3. 4	オーストリアの放送局 (1924)	21
3. 5	スエーデンの放送局 (1924)	22
3. 6	デンマークの放送局 (1925)	23
3. 7	アイルランドの放送局 (1926)	24
3. 8	日本の放送局・NHK-JOAK (1925)	25
3. 9	日本の放送局・NHK-JOBK, JOCK (1925)	26
3. 10	日本の放送局・NHK-JOFK (1928)	27
3. 11	日本の放送局・民間放送 (1951)	28
3. 12	韓国の放送局・NHK-JODK (1927)	29
3. 13	中華民国(台湾)の放送局 (1928)	30
3. 14	バチカンの放送局 (1931)	31
3. 15	パラオの放送局・NHK-JRAK (1941)	32
3. 16	東ドイツの放送局 (1945)	32

3.1 フランスの放送局（1921）

フランスのラジオ放送はパリのエッフェル塔から1921年に始まりました。エッフェル塔は1889年5月6日に開幕したパリ万博時に建立されましたが、1898年11月5日にウジェーヌ・デュクルテ(1844-1915)によって、そこから 4 km 先のパンテオンに向けての電気通信の公開実験が、最初の放送だと言う説もあります。



ラジオ放送75年記念FDC

同時代(1921-1922)にラジオ放送を開始した国々

メキシコの放送局（1921）



ラジオ放送50年記念

スイスの放送局（1922）



ラジオ放送50年記念

3.2 英国の放送局（1922）

1920年1月にマルコーニ電信会社がチェルムスフォード工場からラジオ放送を始めましたが、空軍の無線通信に妨害を与えて停波し、1922年2月14日にマルコーニ科学機器社のライトル局 2MT がラジオ放送を再開しました。同社は同年5月11日にロンドンに 2L0 を開局し、ヴィカーズ社がマンチェスターに 2ZY を開局しました。その後、郵政省 GPOの勧めに従い、無線機メーカーが共同で10月18日に英国放送会社BBCを設立し、ロンドンの 2L0 と、マンチェスターの 2ZY は、そのBBCに移管されました。1926に放送調査委員会が、放送は公共企業体を実施すべきと政府に勧告し、翌年に英国放送協会BBCが設立され現在に至っています。



3.3 チェコスロバキアの放送局（1923）

チェコスロバキアの国営放送局として1923年に公共放送を開始しました。その後、チェコ放送局は、チェコ共和国内にあったこれらの放送局を引き継いで運営しています。



ラジオ放送60年記念



ラジオ放送40年記念FDC

同時代(1923)にラジオ放送を開始した国々

ドイツの放送局（1923）



ラジオ放送50年記念

ベルギーの放送局（1923）



ラジオ放送50年記念

オーストラリアの
放送局（1923）



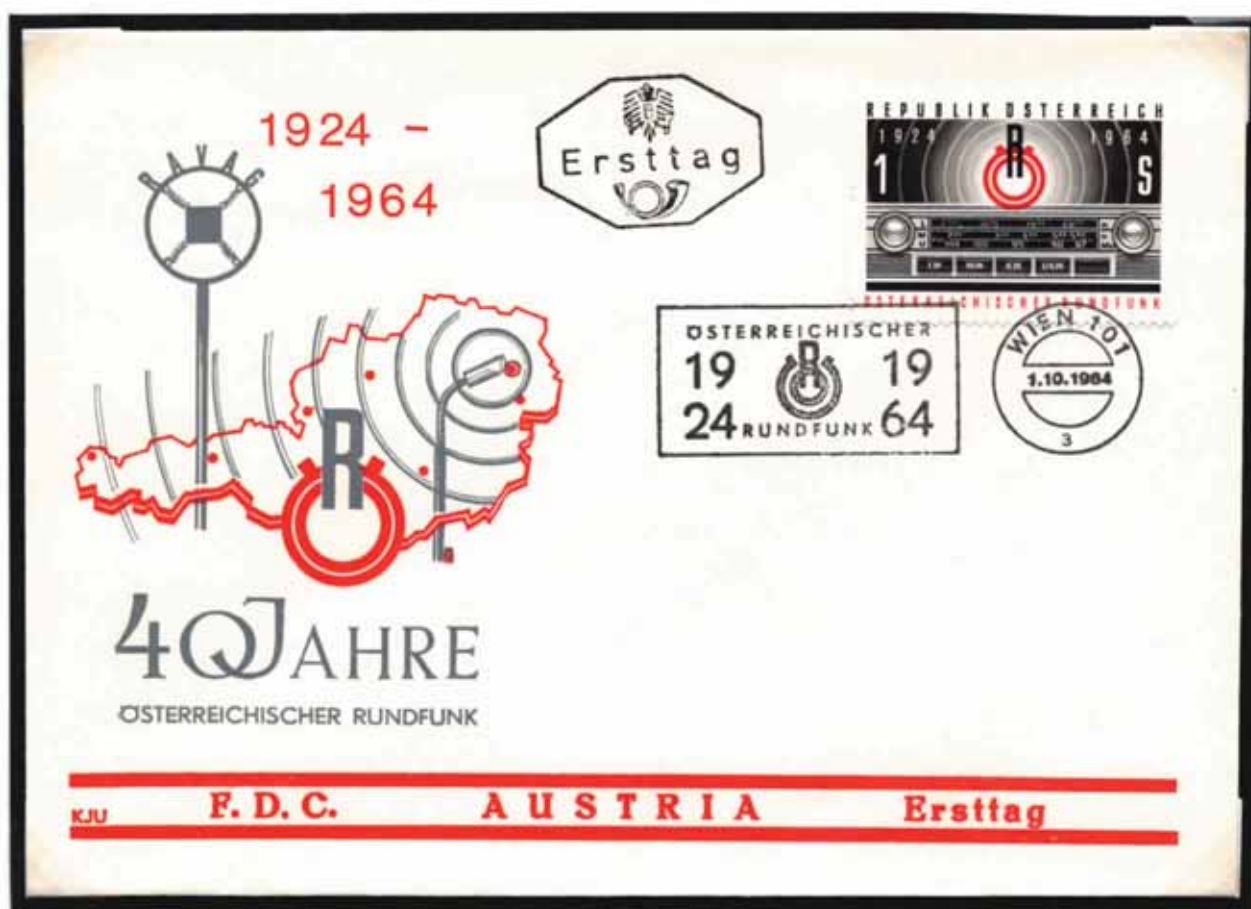
ラジオ放送50年記念

3.4 オーストリアの放送局（1924）

オーストリアのラジオ放送局は1924年に開局しました。ドイツ軍の敗戦後に再統合されたオーストリア放送局協会(ORF)は公共放送局です。正月に開催されるウィーンフィル・ニューイヤーコンサートの中継も行っています。



ラジオ放送50年記念



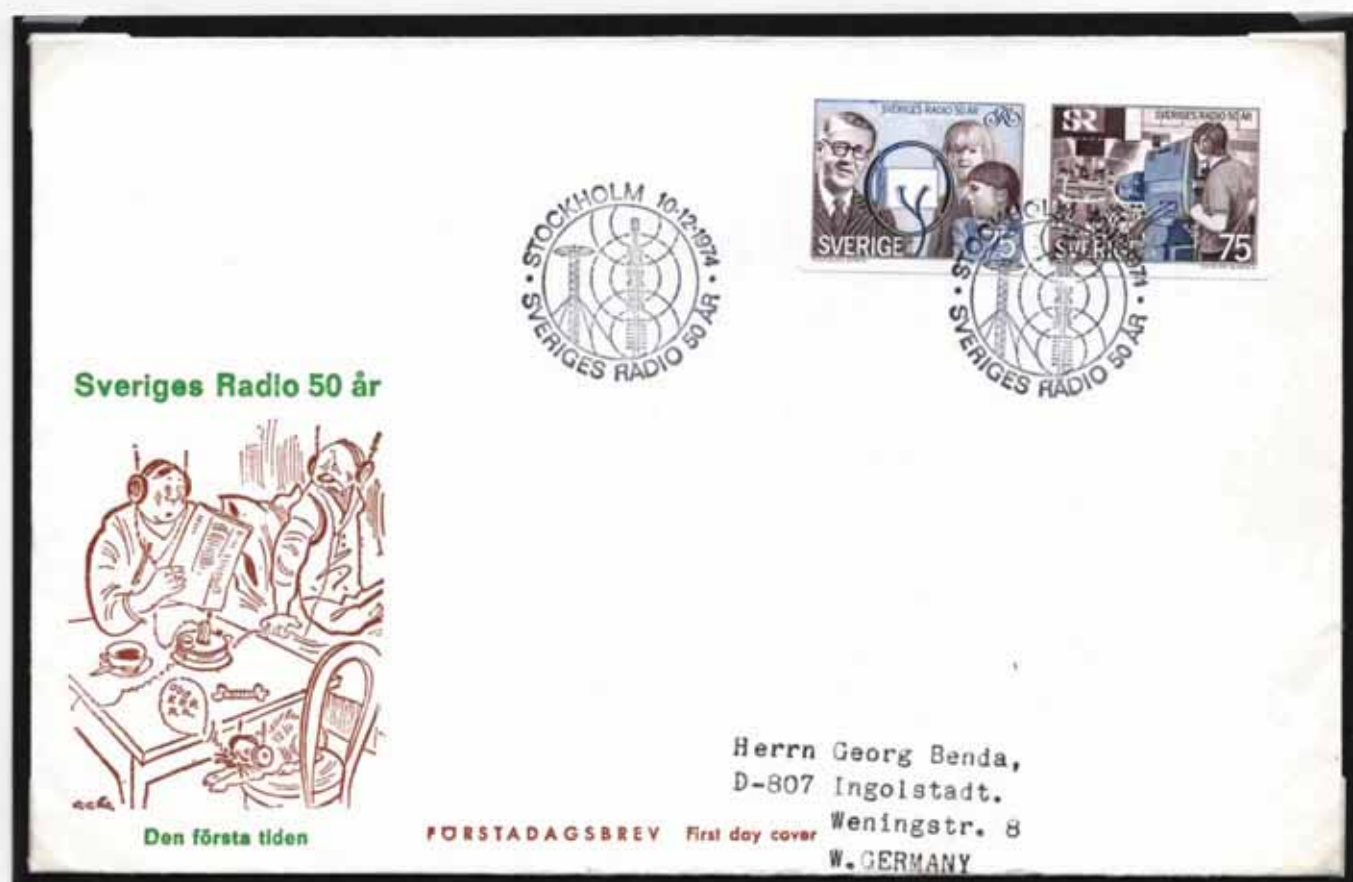
ラジオ放送40年記念FDC

3.5 スエーデンの放送局 (1924)

スエーデンでは1924年3月にラジオ・サービス社が設立され放送を開始しました。翌年1月1日にはスエーデン放送(SR)として公共放送を開始、運営費は英国のBBC同様、受信料で賄っています。



ラジオ放送50年記念



ラジオ放送50年記念FDC

3.6 デンマークの放送局 (1925)

1925年にデンマークの公共放送局として、デンマーク放送協会(DR)が設立されました。翌1926年に国营放送(SR)と改名して、1927年8月27日にラジオ放送を開始しました。1959年にデンマーク放送(DR)と改名しています。



ラジオ放送25年記念



ラジオ放送50年記念FDC

同時代(1925)にラジオ放送を開始した国々

ノルウエーの放送局 (1925)



ラジオ放送50年記念

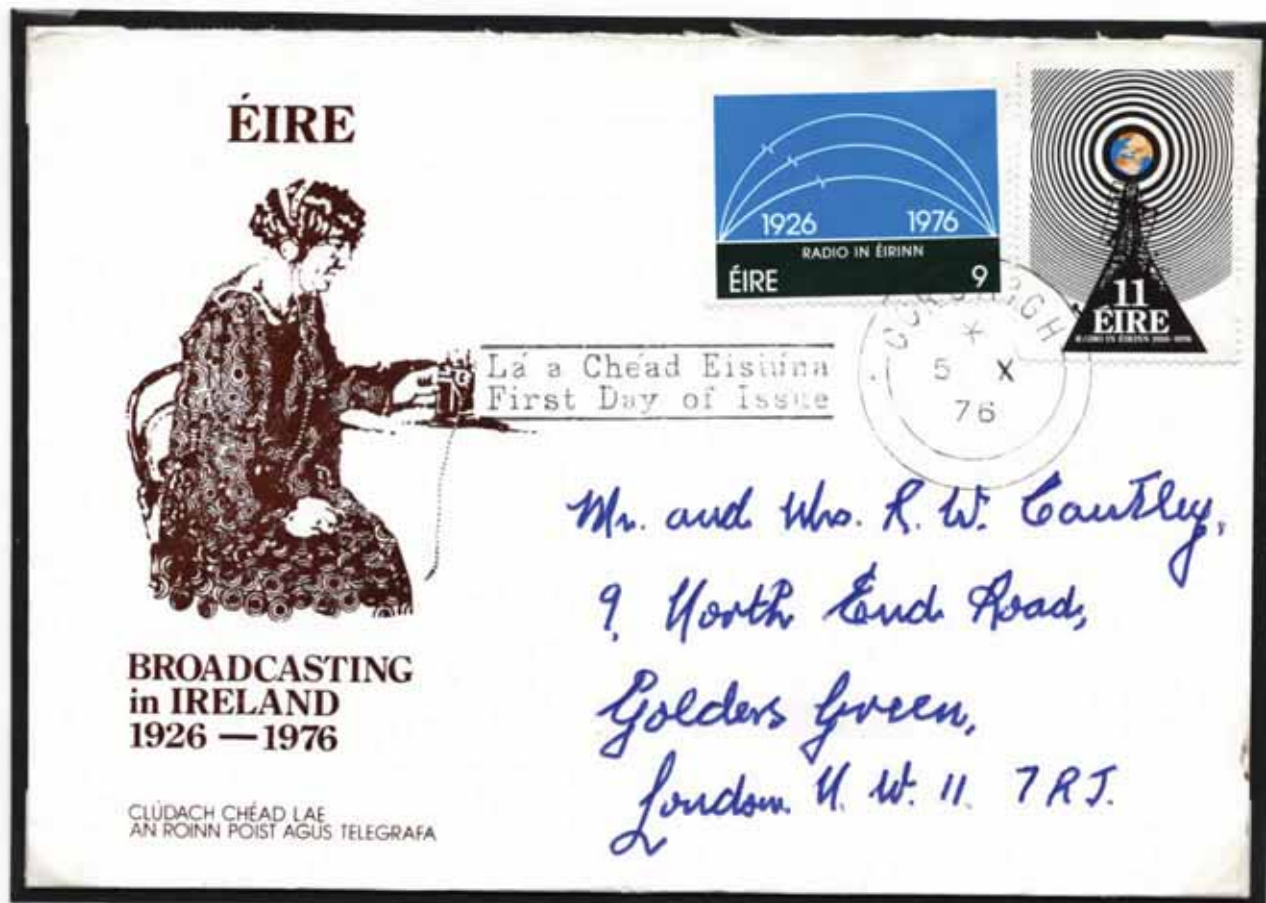
エストニアの放送局 (1925)



ラジオ放送75年記念

3.7 アイルランドの放送局 (1926)

アイルランドのラジオ放送は1926年1月1日に開局しています。現在アイルランド放送協会(RTE)が公共放送として、1961年12月31日に開始したテレビ放送と共に運営しています。



ラジオ放送50年記念FDC実遞

同時代(1926)にラジオ放送を開始した国

フィンランドの放送局 (1926)



ラジオ放送50年記念

ボリビアの放送局 (1929)



ラジオ放送50年記念

3.8 日本の放送局・NHK-JOAK (1925)

1923年の関東大震災のあと、逓信省は1924年に東京、名古屋、大阪の3地域でラジオ放送を許可しました。そして1925年3月22日、東京芝浦の仮放送所から「JOAK、JOAKこちらは東京放送局であります」と日本初のラジオ放送が行なわれました。愛宕山の放送局の完成は6月15日で、放送は7月12日からでした。

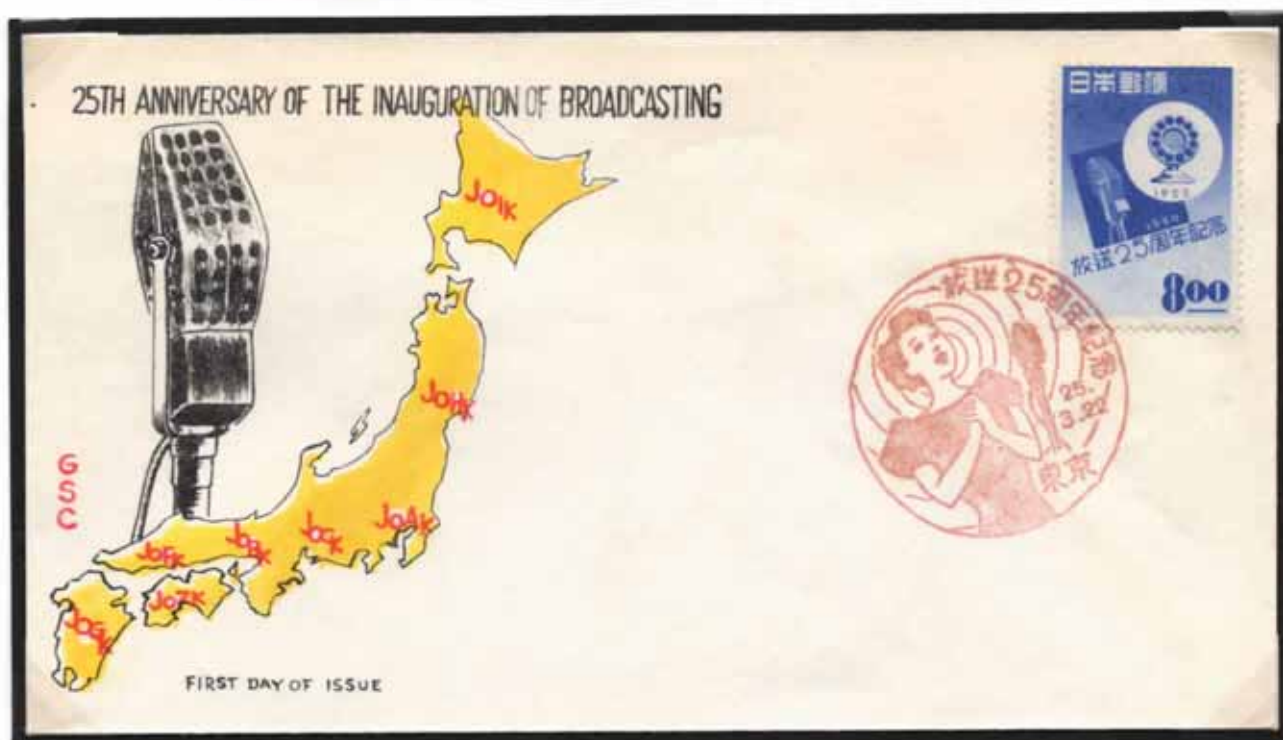


震災切手



所送放山宕愛局送放京東

JOAK



3.9 日本の放送局・ NHK-JOBK (1925) NHK-JOCK (1925)

1925年に放送を開始した東京、名古屋、大阪の3放送局が1926年に統合され、日本放送協会 NHK が誕生しました。ラジオ受信機の普及とともに、スポーツ中継や音楽など様々な番組を放送し、庶民の娯楽の中心を担いました。しかし、戦争が始まると大本営発表を伝えるプロパガンダ機関としての性格を強めていきました。



放送50年記念



JOCK 放送開始一周年記念 懸賞募集一等當選漫画



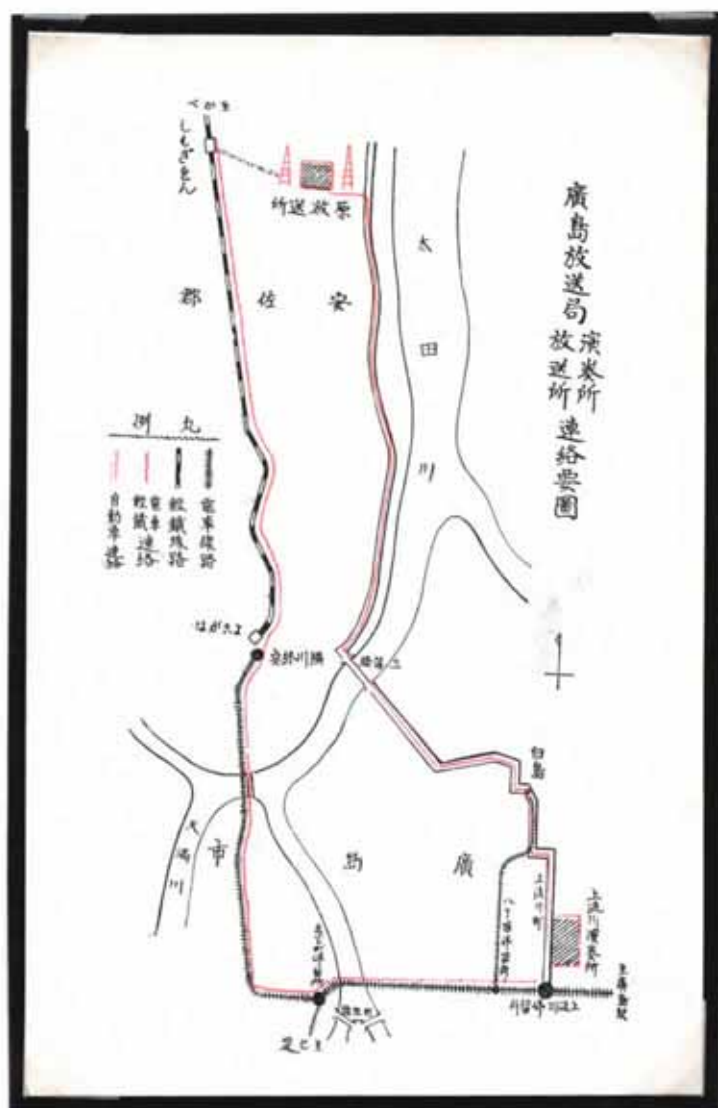
2025.6.1のBK100年まつりで配布された、1926.6.1発行JOBK放送開始一周年記念絵葉書の復刻版

3.10 日本の放送局・NHK-JOFK (1928)

広島県を放送対象地域とする NHK の地域放送局 JOFK が、1928年7月6日ラジオ放送を開始しました。1945年8月6日の原爆により上流川町の放送局舎/演奏所が壊滅、約40名の職員が犠牲となり、生き残った職員は原放送所に集結し、予備演奏所を使用して翌日からローカル放送を再開しました。被爆直後から大阪中央放送局などの近隣の放送局に救援を求めている、岡山放送局 JOKK と交信が出来て、同局から原爆投下の第一報が東京へ伝えられました。1945年8月29日の夕方より本回線が復旧し、全国放送を本格的に再開しました。



ラジオ体操開始



JOFK広島放送局開局記念葉書
広島放送局の演奏所・放送所を示す地図



3.11 日本の放送局・ 民間放送（1951）

NHKが独占していた日本のラジオ放送は、第二次世界大戦後に民間に解放され、1951年4月21日に16社がラジオ放送局の予備免許を受けました。同年9月1日に中部日本放送と、新日本放送がラジオ放送を開始しました。その後全国各地の民間放送局がラジオ放送を始めます。



プロ野球

郵便はがき

〒 〇〇〇-〇〇

57.5.1
8-12

売価 35円

ライオンズ・ナイター ★ ホームラン・ナイター

月～金PM8:00～9:00 土日PM6:00～9:10(試合終了まで)

We Love RADIO 1134 文化放送



民間放送50年

The 50th Anniversary
of Private Commercial Broadcasting
in Japan

First Day of Issue Nov. 15, 2001



3.12 韓国の放送局・JODK (1927)

日本統治時代の1927年2月16日に京城放送局 JODK として放送を開始したのが始まりです。1945年の解放後、名称をソウル中央放送局 HLKA に変更され、大韓民国建国時に国営化されました。



ラジオ放送50年記念
韓国放送センター

放送局一覧表

(内地・朝鮮・台湾・南洋・支那)

(昭和十三年三月一日現在)

局 所	呼出符号	周波数 KC/8	大略放送 m	電 力 KW
朝鮮・京城	MTGY	560	539	100.0
		570	526	
合 中	JPCK	580	517	1.0
東京第一	JOAK	590	509	150.0
宮 崎	JOMG	600	500	0.5
金 澤	JOJK	610	492	3.0
北島マニラ	KZRM	620	484	50.0
岡 山	JOKE	630	476	0.5
北 京	XGAP	640	469	10.0
漢 口	JODG	640	469	0.5
秋 田	JOUK	650	462	0.3
		660	455	
松 江	JOTE	670	448	0.5
崎 玉	MPFY	674	445	3.0
神 戸	JOVK	680	441	0.5
大阪第一	JORK	690	435	10.0
旭 川	JOCG	700	429	0.3
京城第一	JODK	710	423	50.0
高 知	JORK	720	417	0.5
合 南	JPHK	720	417	1.0
名古屋第一	JOCK	730	411	10.0
小 金	JOSK	740	405	1.0
合 北	JPAK	750	400	10.0
大 津	JQAK	760	395	1.0
山 梨	JOHK	770	390	10.0
静 岡	JOPK	780	385	0.5
藤 原	JOGK	790	380	10.0
甲 府	JONG	800	375	0.5
札 幌	JOIK	810	370	10.0
		820	366	
廣 島	JOPK	830	361	10.0
弘 前	JORG	840	357	0.3
		850	353	

局 所	呼出符号	周波数 KC/8	大略放送 m	電 力 KW
東京第二	JOAK	870	345	150.0
		880	341	
奉 天	MPBY	890	337	10.0
島 根	JOLG	890	337	0.5
上 海	XOJB	900	333	10.0
福 岡	JOLK	910	330	0.5
新 潟	JOQK	920	326	0.5
長 崎	JOAG	930	323	0.5
大阪第二	JOBK	940	319	10.0
豊 後	JOOB	950	316	0.5
		960	313	
京城第二	JODK	970	309	50.0
徳 島	JOCK	980	306	0.5
名古屋第二	JOCK	990	303	10.0
前 橋	JOBG	1000	300	0.5
		1010	297	
青 島	JOPG	1020	294	0.3
愛 媛	JBAK	1030	291	0.15
兵 庫	JONK	1040	289	0.5
秋 田	JOSG	1040	289	0.5
鹿 島	JOHG	1050	286	0.5
宮 山	JOIG	1060	283	0.5
京 都	JOOK	1070	280	0.3
山 形	JOJG	1080	278	0.5
平 塚	JBBK	1090	275	0.5

우 편 엽 서

보내는 사람

□□□-□□□

받는 사람



□□□-□□□



七欧無線電氣商會



第2回国税調査記念
日本地図 1930年

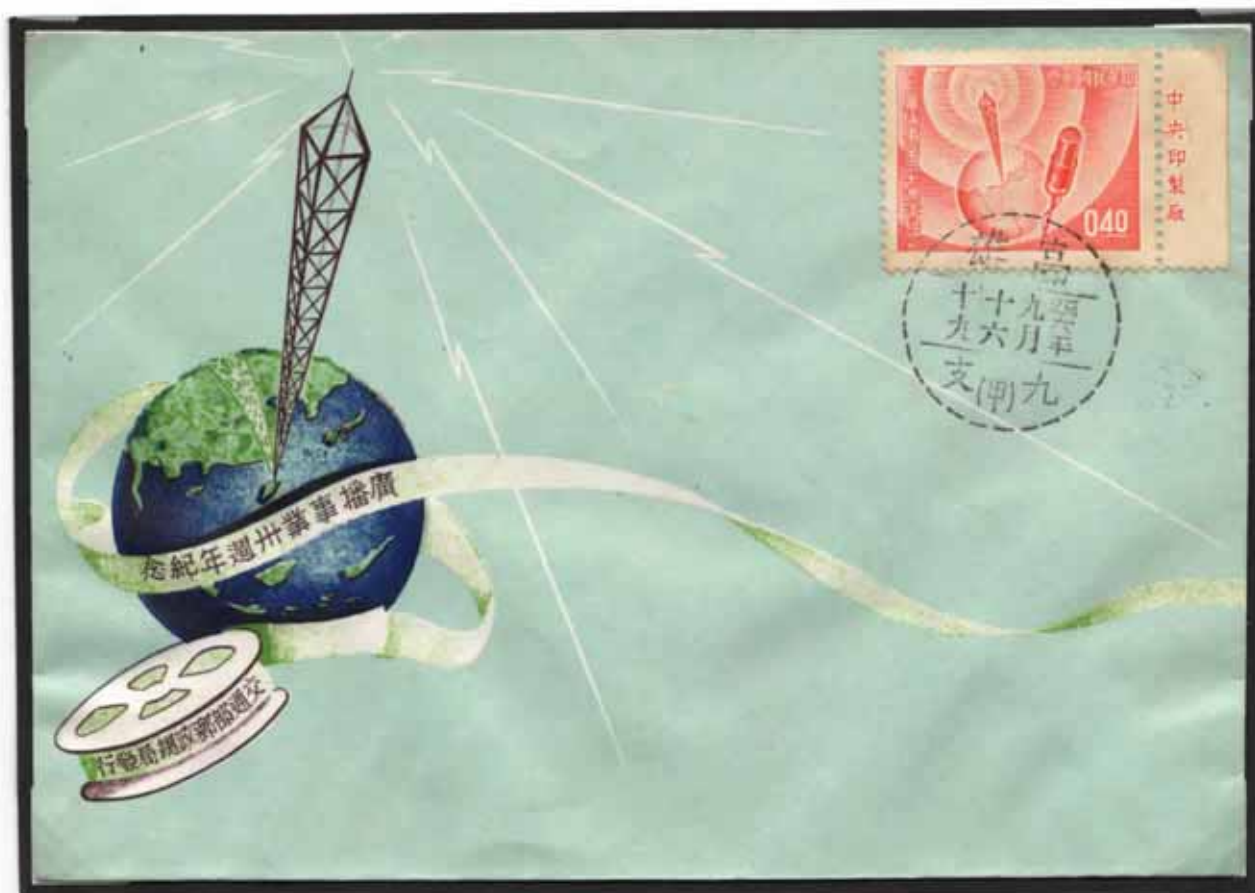
ラジオ放送70年記念はがき - 記念消印にJODKの文字が見える

3.13 中華民国(台湾)の放送局 (1928)

日本統治時代の台湾総督府交通局逓信部が1928年11月、台北放送局 JFAK を開設、本格的な実験放送を開始したのが始まりです。太平洋戦争終了後の1945年11月、中華民国政府に接收され、放送施設と送信設備は中央広播事業管理处(現在の中国広播公司)に継承されました。



ラジオ放送60年記念



ラジオ放送30年記念FDC



ラジオ放送30年記念



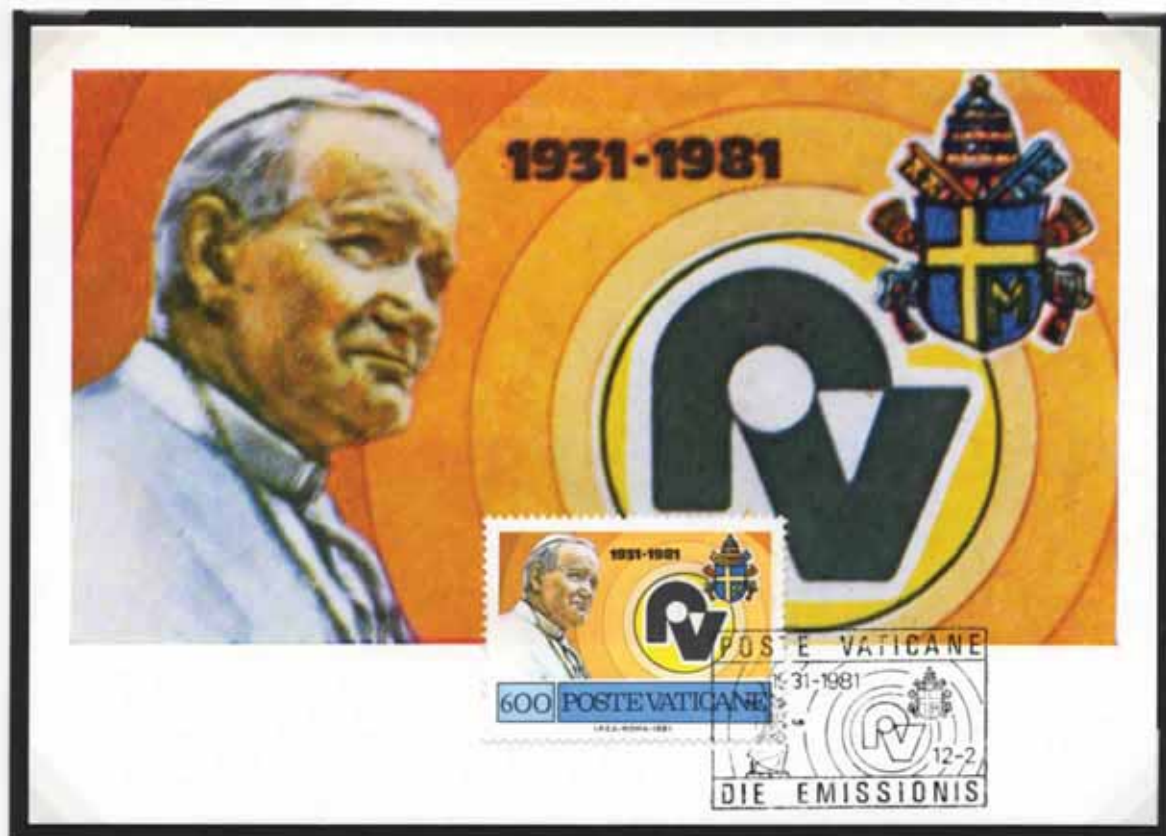
ラジオ放送40年記念

3.14 バチカンの放送局 (1931)

バチカン放送局 HVJ は1931年12月12日に開局しました。送信所のアンテナはローマ郊外のサンタ・マリア・ティ・ガレリアにあります。日本語放送は1959年2月から始まり、2001年3月25日で終了しました。

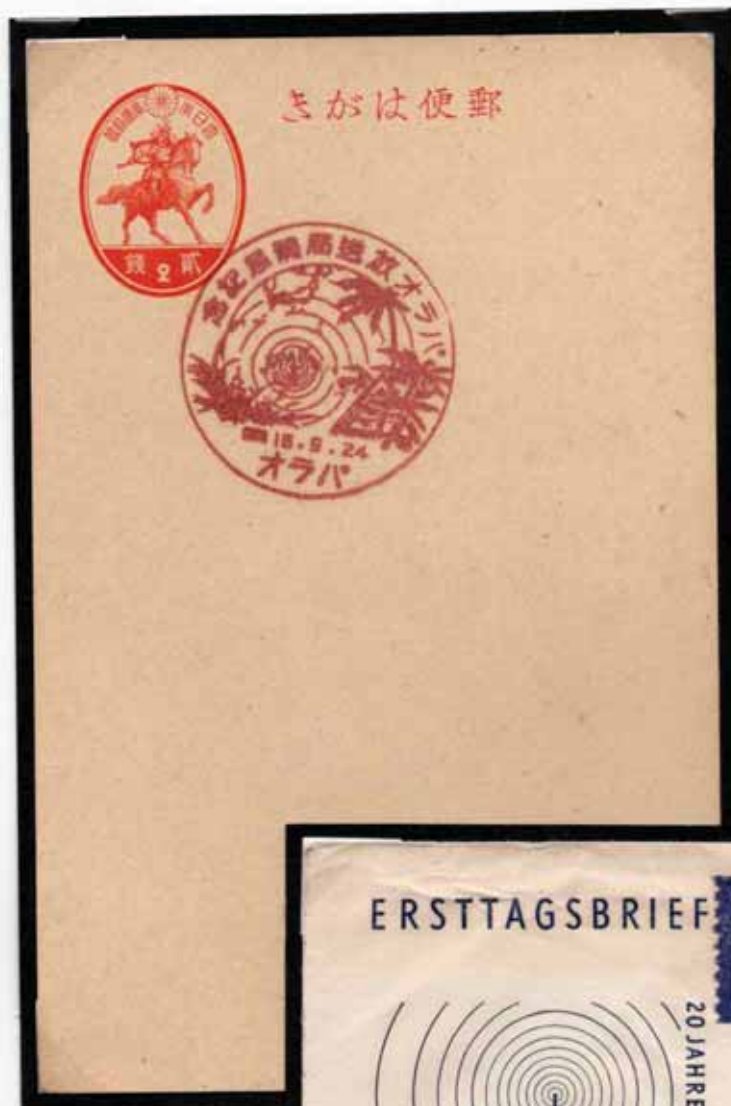


ラジオ放送局のアンテナタワーと天使ガブリエル像



ラジオ放送50年記念MC

3.15 パラオの放送局 (1941)



1941年9月24日に開始したパラオの放送局は、当時の日本放送協会(NHK)が開設した放送局で、コールサインはJRAKでした。この放送局は短波で東亜中継放送を主としていたのですが、ローカル番組も少し放送していました。

← パラオ放送局開局記念印 JRAK

3.16 東ドイツの放送局(1945)

東ドイツのラジオ放送局は、ドイツ民主共和国の国営放送局で、1945年5月13日から1991年12月31日まで存在しました。統一後は、ドイツ公共放送連盟の傘下に移管されました。



ラジオ放送20年記念FDC実通

第4章 国際放送

国際放送とは、国外の受信者に向けて行う放送のことで、小電力で遠距離まで届く短波が用いられたので、短波放送と呼ばれることもあります。日本からは日本語や外国語で国外に向けて、外国からは日本に向けて日本語でも放送されています。国際放送が始まった初期の第二次世界大戦中は、専ら謀略放送(プロパガンダ)に使われました。

4.1 日本の国際放送

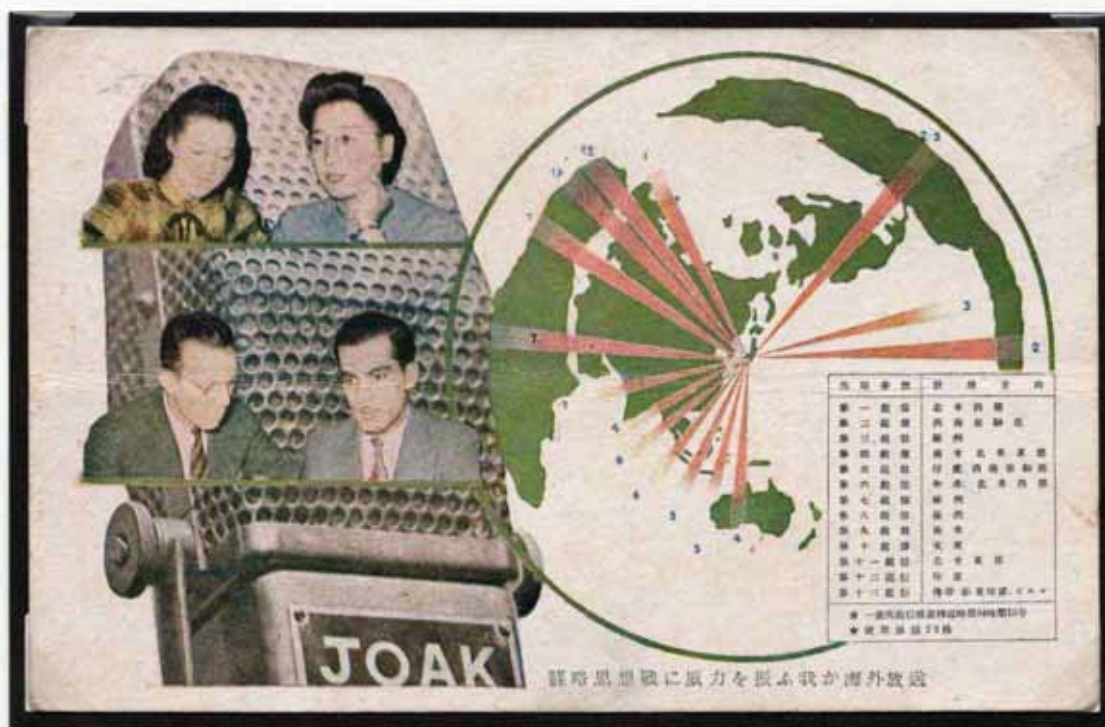
日本の国際放送は1935年6月1日に、社団法人日本放送協会(NHK)によって「ラジオ・トウキョウ」名で始まり、1日1時間、北米西部やハワイに向けて日本語と英語で放送されました。第二次世界大戦後はGHQの指示で一時中断しましたが、1952年2月に「ラジオ日本」として再開されました。



国際放送25年記念



国際放送50年記念



日本 1940.7.4に差し出された、JOAKの海外放送の絵はがき

4.2 米国の国際放送

VOAは1942年戦時中のドイツと日本に向けて放送するため情報局の下に設立された。



VOA 25年記念FDC

4.3 中国の国際放送

ラジオ北京は1947年に世界に向けて放送する国営放送局として開設された。



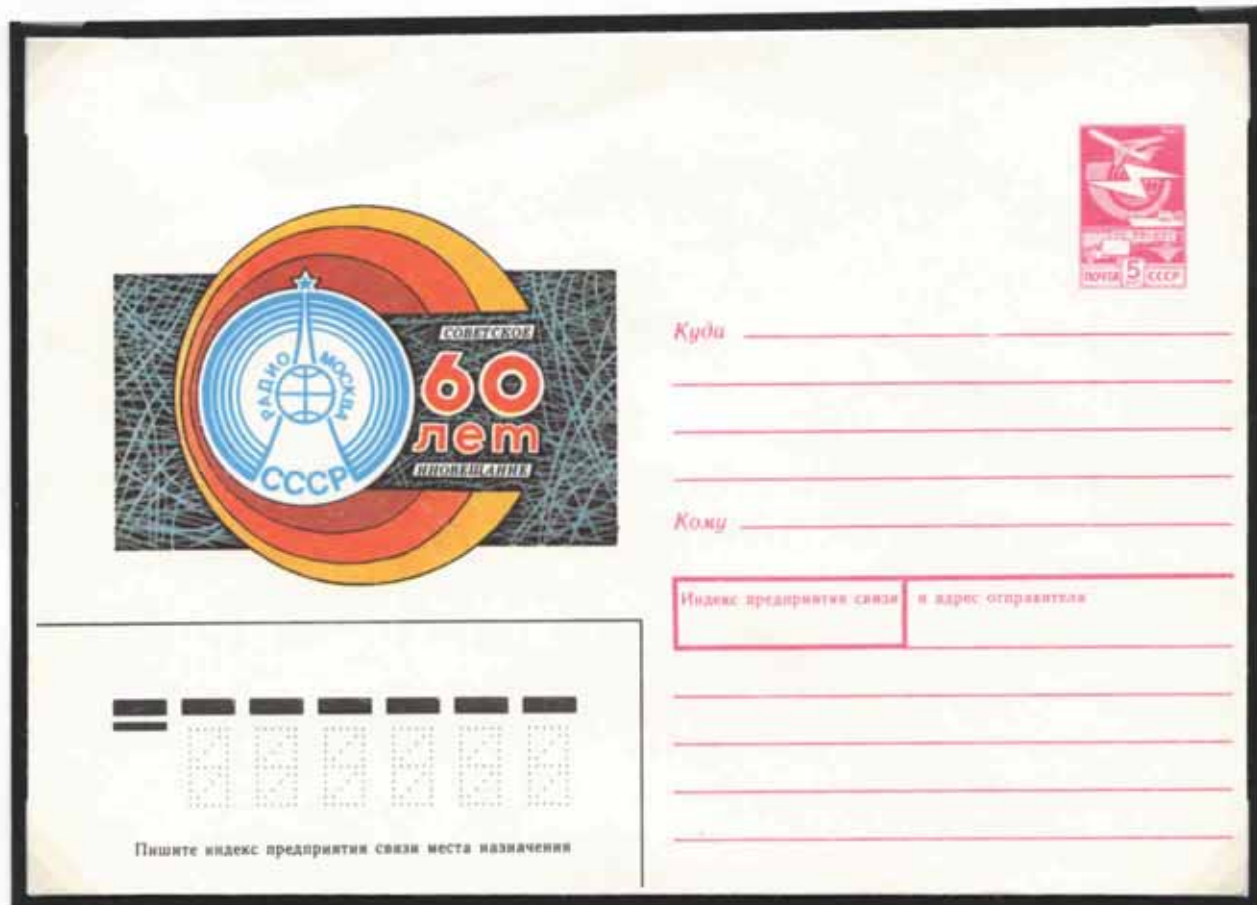
ラジオ北京40周年記念切手付き封筒

4.4 ロシアの国際放送

ロシアの国際放送は、ソ連時代の1929年10月にラジオモスクワとしてドイツ語で放送を開始、11月にフランス語、12月に英語の放送を加えました。日本語放送は1942年4月に始まりました。1994年にロシアの声に改名されました。



ラジオモスクワ50周年記念



ラジオモスクワ60周年記念切手付き封筒

4.5 その他の国々の国際放送

オーストラリアの
国際放送 (1939)

ラジオオーストラリア
50年記念

モナコの国際放送



ラジオモンテカルロ

オランダの国際放送
中継局 (1969)

オランダの国際放送中継
局(ボネール島)開局記念

4.5 その他の国々の国際放送（続き）

スイスの国際放送(1935) カナダの国際放送(1944) 東ドイツの国際放送(1959)



ラジオスイス50年記念



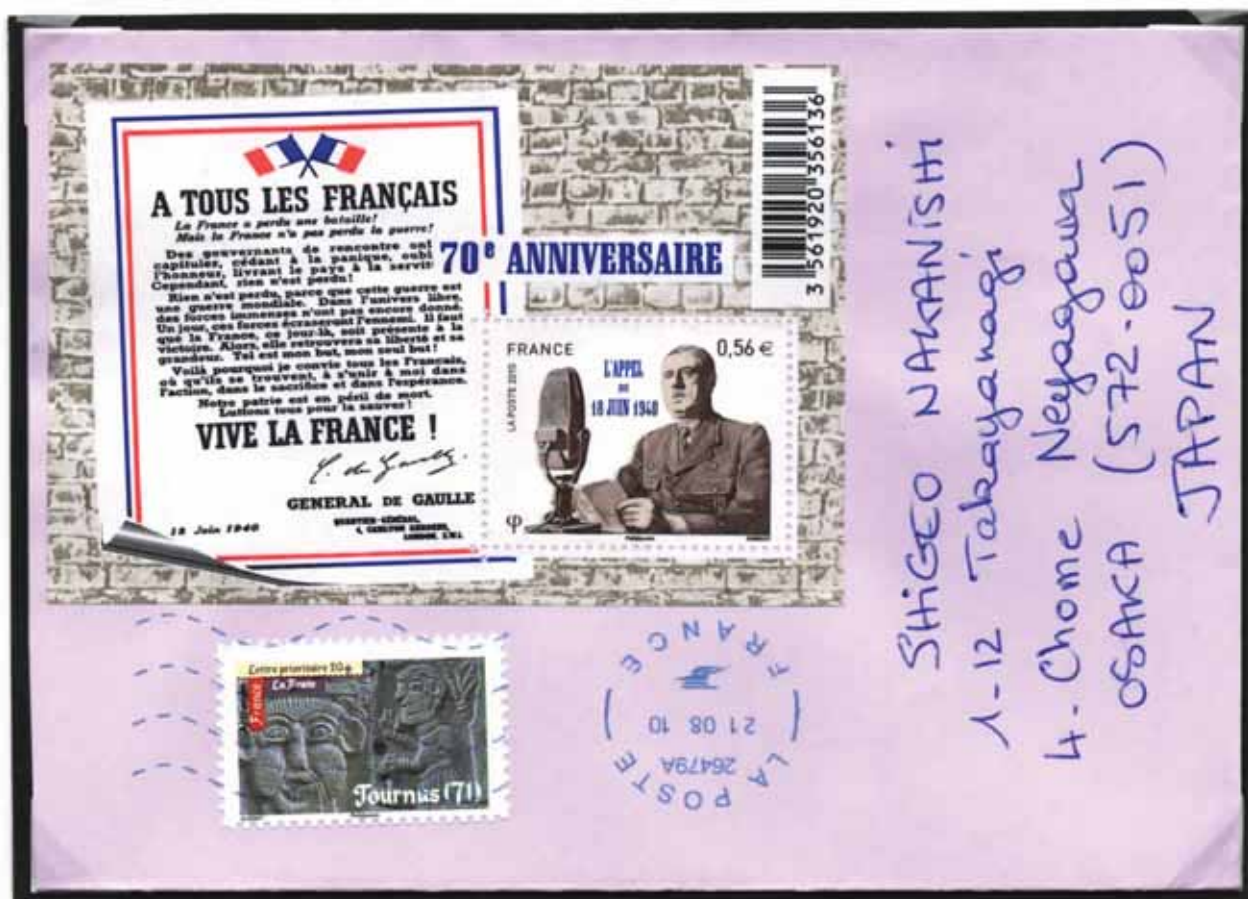
ラジオカナダ新送信機開始



ラジオベルリン25年記念

4.6 国際放送の政治的利用

第二次世界大戦中、ドイツ軍によるフランスの敗北が決定的となった1940年7月18日に、シャルル・ド・ゴールは亡命先のロンドンから、BBCラジオ放送を通してフランス国民に、戦争はまだ終わっていないこと、フランスのドイツに対する抵抗はなおも続き、英国や米国とともに勝利するだろうと訴え、フランス国民を鼓舞した。



シャルル・ド・ゴールの1940年7月18日の呼びかけ70年記念小型シート貼り実通

第5章 ラジオ受信機とラジオメーカー

5.1 初期のラジオ受信機



ラジオ放送50年記念



ラジオ放送50年記念



三井物産株式會社
機 械 部

本店 東京市日本橋區本町二丁目一番地
支店 大阪 神戸 名古屋 小樽 門司 台北 京城 大連

機械部陳列所 東京市神田區美土代町三ノ一
電話大手五五一一、五五二二

**RADIOLA
SUPER VIII
AND
SUPER-HETERODYNE**
Manufactured by
General Electric Co.

ラヂオラ・スーパー・ヘテロダイナ

附屬品:

ラウド・スピーカー 壹個

UV-199 ラヂオトロン 六個

但シ電池ハ附屬セズ。

定價 ¥950.00



米国 GE社製スーパーヘテロダイナラジオRADIOLA VIII (1924年頃の三井物産のカatalog)

5.1 初期のラジオ受信機（続き）



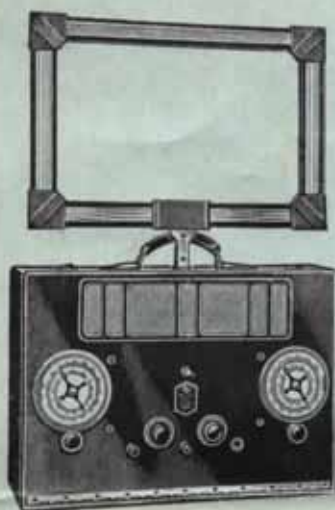
VEF 50年記念



ラジオ放送50年記念



英国・ビンテージラジオクラブ会員証 (2001)



PORTABLE SUPER-HETERODYNE RADIOLA 24



(形るたち開)

携帯用スーパー・ヘテロダイ ン ラヂオラニ二十四の特徴

専ら旅行等の携帯用として製作せられたるものにて外装は廉雅なる皮革を用いてトランク状をなしその重量は所要乾電池共に四貫八百匁に過ぎざる事。

自由に廻轉し得る棒形アンテナを具備し居る故他に一切空中線及接線線を要せず。

- ⑧ 器内にラウド・スピーカー装置を有す。
- ⑦ 絶対に振動電流を発生せず。
- ⑥ 真空管は全部乾電池にて作用する故蓄電池を要せず。
- ⑤ 乾電池は全部器内に納め得るを以て携帯に簡便なる事。
- ④ 波長は僅か四秒乃至五秒にて簡単に同調し得一度同調すれば其位置をステーションセレクトアイに記入し得る故次回よりは同調に何等の手段を要せず。
- ③ 感度鋭敏なる故遠距離の放送も肉聲に近く明瞭に聴取し得らる。

定價金六百五拾圓也
眞空管六個付
但し乾電池ラヂオ

米国 GE社製スーパーヘテロダインプータブルラジオ RADIOLA24 (1926年頃の三井物産のカタログ)

5.1 初期のラジオ 受信機（続き）

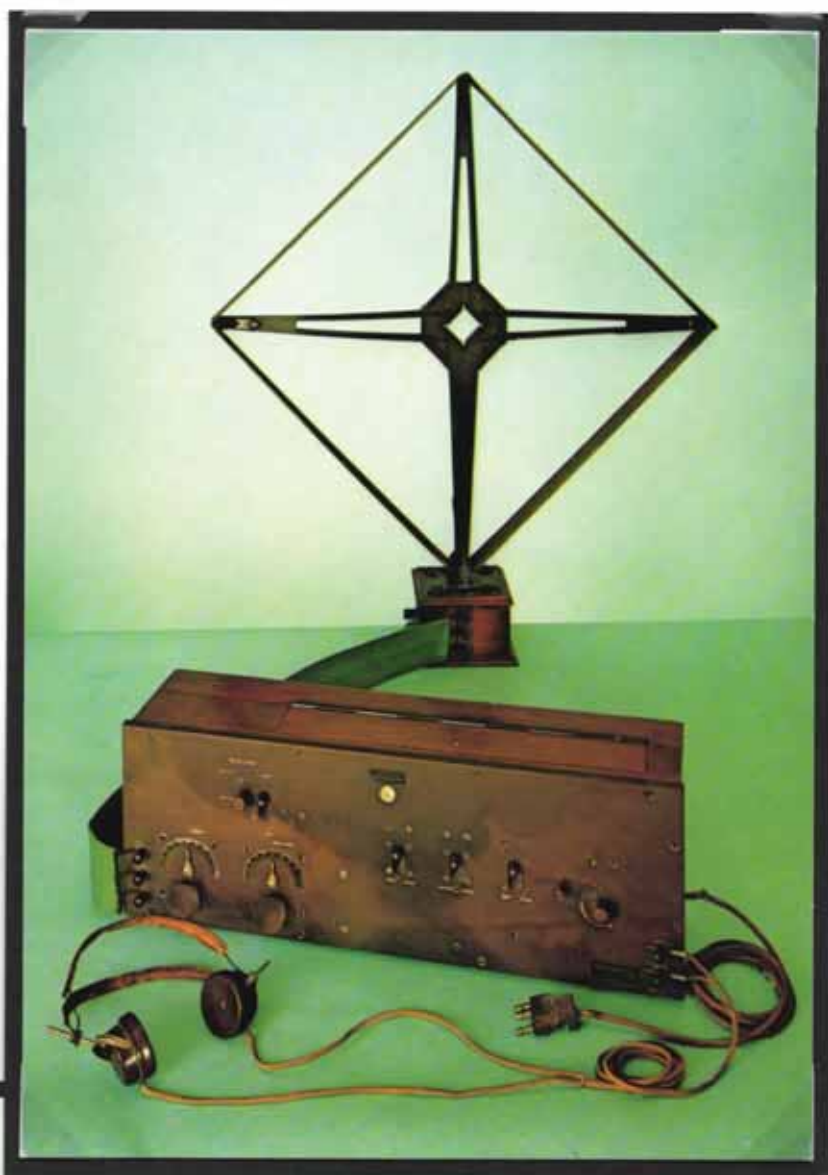


ラジオ放送50年記念
金属製ホーンのスピーカー



ラジオ放送50年記念
木製ホーンのスピーカー

米国 ウェスタン・エレクトリック社の、
→ スーパーヘテロダイン受信機、44002 と、
フレームアンテナ（ループアンテナ）



英国 マルコニー社の鉱石ラジオ A型（左端）他、各種鉱石ラジオ

5.1 初期のラジオ受信機（続き）



カナダ 2020.5.20 ラジオ放送100年記念切手帳 ↑と、そのFDC ↓



5.2 ヨーロッパのラジオメーカー



テレフンケンラジオ(1934)



フィリップスラジオ(1943)



ラジオの生産



テレフンケン社の広告



シメスシヤケルト會社をラヂオラジオ販売部

定價表

ラトスピーカー
EH329
四十二圓

速聴専用
二百三十圓

ボリテクタル
四圓五十錢

真空管各種 六圓
最新機大 九圓五十錢

鑛石檢波器
二圓五十錢

テフマン3A
百二十五圓

受話器EH333
九圓九十錢

アルコン
四十五圓

TELEFUNKEN Werbung in Japan (1925)

日本でのテレフンケンの広告 (1925) 絵葉書

5.3 日本のラジオメーカー

 1915年 シャープ ペンシルを発明	 1925年 国産鉱石 ラジオ第1号開発	 1953年 国産テレビ 第1号量産	 1962年 国内初 電子レンジ量産
 1964年 世界初オール トランジスタ電子式 卓上計算機発売	シャープ社友会アマチュア無線同好会 OSAKA JAPAN JL3YJL JCC#250119 GL:PM74SO ZONE 25 1912年～2012年		 1964年 国内初 太陽電池標準 モジュールを量産
		100周年 創業者早川徳次が 町(現:江東区新大橋) に「 される商品をつくれ」	 1988年 世界初14型 TFTカラー液晶 ディスプレイ開発

シャープ無線クラブのQSLカード



日本のラジオ

郵便はがき

〒都 59.3.1 8-12

売価 35円

エレクトロニクスの新しい可能性を拓く—— **SHARP**

シャープ株式会社

創立二十周年

昭和七年 松下電器製作所

株式会社 日本施工 Tel: 3493-5848 Fax: 3493-5899

© 1997 ホワット・アレホンカード 50

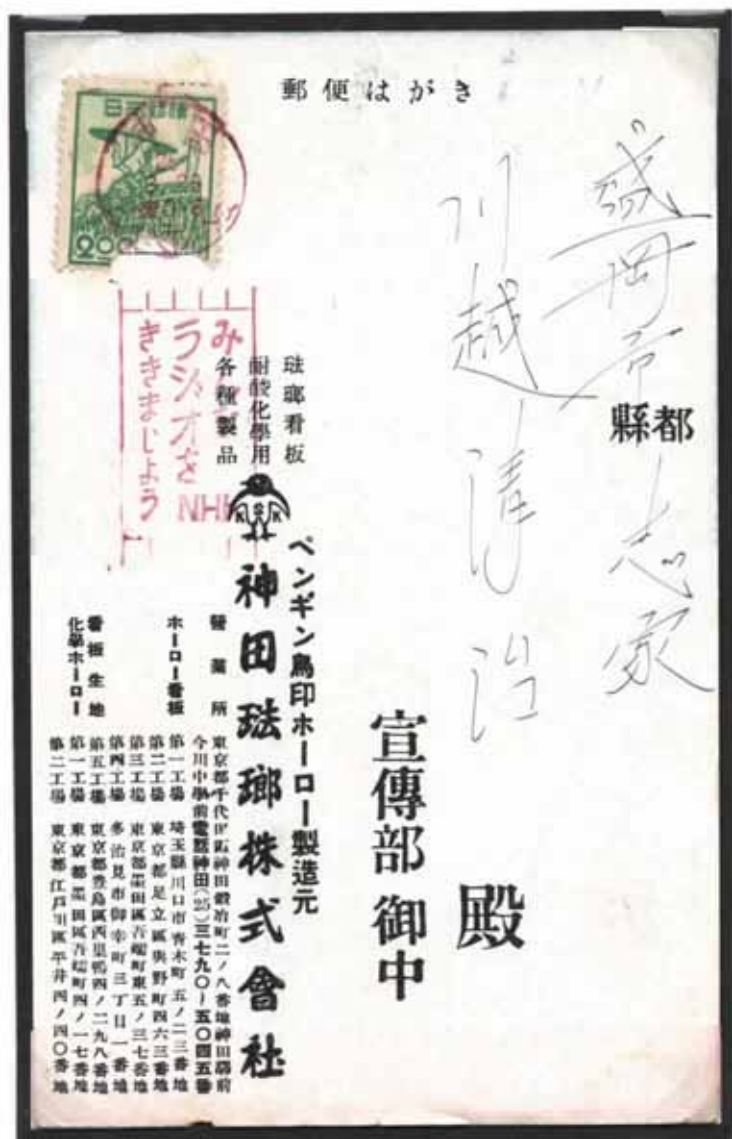
松下電器製作所

第6章 ラジオ放送の受信

6.1 ラジオ受信の啓蒙

日本では戦前戦後を通じて、ラジオを含む通信展覧会が各地で開かれ、その普及やの啓蒙が行われました。

通信交通文化展覧会記念印 (1940) →



「みんな ラジオを ききましょう
NHK」の標語入り消印 (1950)



伸びゆく電気通信展小型シートに
展覧会記念印 (1949)

6.2 受信料金の徴収

セイロン
受信料支払い
啓蒙標語入り
消印 (1938)→



大阪第501112 號

© 裏面注意

昭和七年 壹 月 廿 貳 日

大阪逓信局長

令ヲ遵守スヘシ

昭和七年 一月 十一 日出願ニ係ル聴取無線電話私設ノ件許可ス
施設者ハ無線電信法及放送用私設無線電話規則並ニ基ク命

施設者

後藤田豊太郎

機器設置場所 港ヲ至軒家市場通ニテ

聴取無線電話私設許可書

ヲテモ也

コイスミチヨウ562

様

NHK 放送受信料領収証

振替日

昭和63年 8月26日

金額 (円)	お支払期間	契約件数 普通 カラー
5,570	昭和63年 8月～昭和64年 1月	1
金融機関	支店(所)・科目・口座番号 郵便貯金通帳 記号 番号	次回振替予定日
キヤンコウ		昭和64年 2月27日

上記放送受信料を口座振替により領収いたしました。

日本放送協会



放送局 (営業所) 支店

〒630

放送局

奈良市錦屋町27

番号	電話番号 (転居等受信料関係のご連絡)	[放送番組等についてのご照会]
0027132 2050	0742 26-3411	0742 26-3411 62261-3*031131-3

受信料のお支払いありがとうございました。

～お引越しのおりはNHKまでご連絡ください～

NHK放送受信料領収書 (1988)

聴取無線電話私設許可書 (1932)

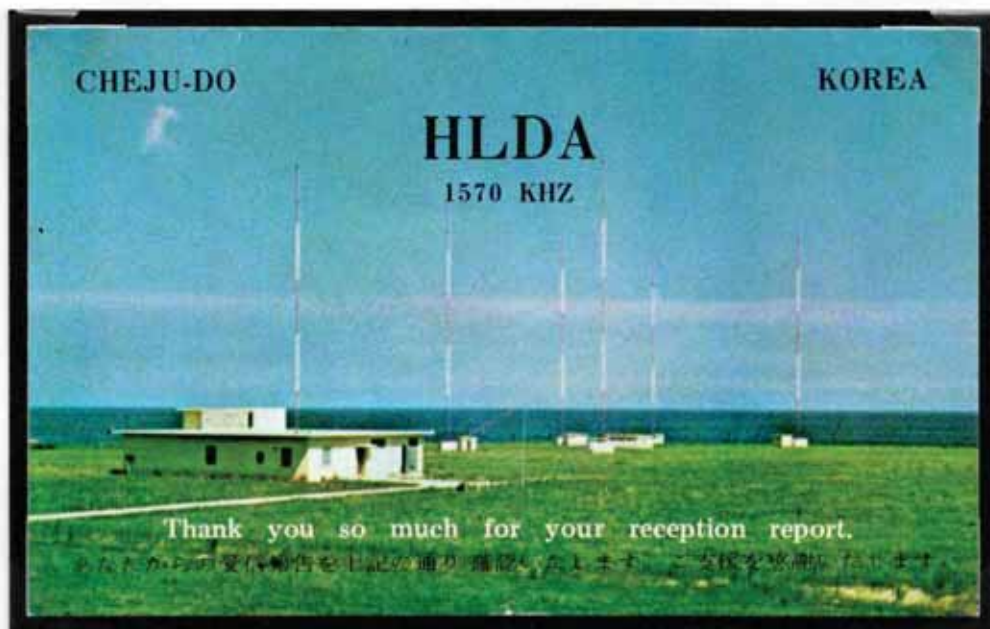
6.3 ラジオを聴く人々とベリーカード (続き)

ベリーカード (受信証明証)

ラジオを聴く人々



ラジオの驚き
ノーマン・ロックウェル画



韓国の極東放送チェジュ局 HLDA のベリーカード (1977)



NHK ラジオ・ジャパンのカナダ中継放送のベリーカード (1986)

6.3 ラジオを聴く人々と ベリーカード (続き)

ラジオを聴く人々



ラジオ放送50年記念



ラジオスポーツ10年記念



英国 ラジオの音楽でダンスをする男女の絵葉書



英国 ヘッドフォンでラジオを聴く子ども達の絵葉書

6.3 ラジオを聴く人々とベリーカード (続き)

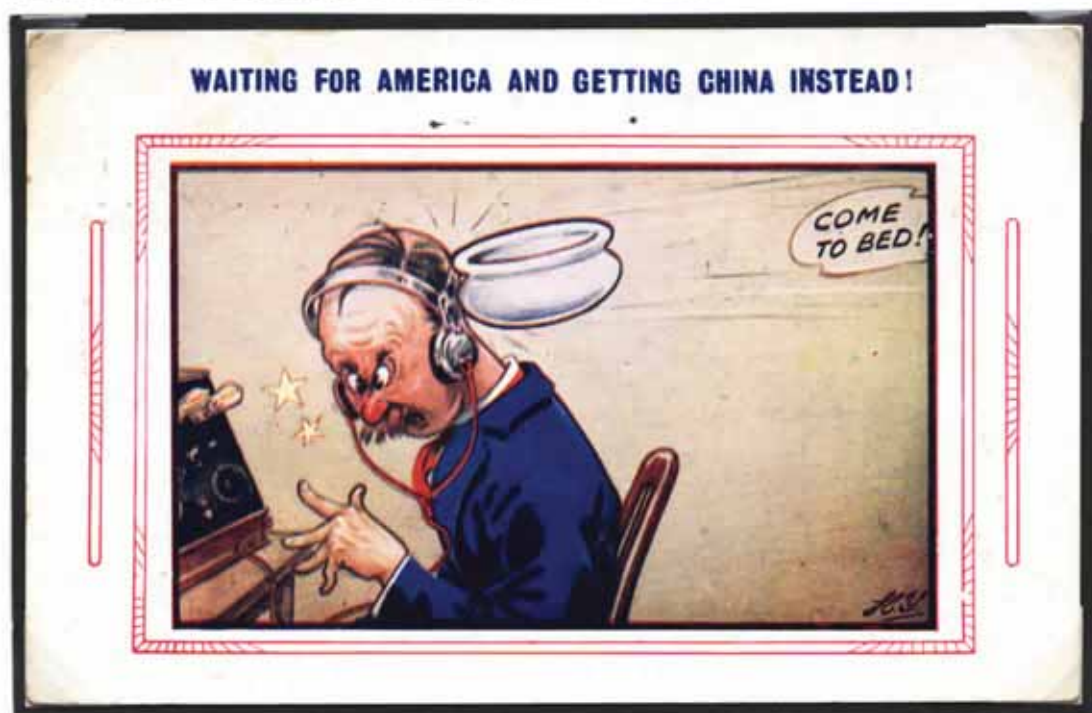
ラジオを聴く人々 (コミック)

YOU'RE TELLING ME !



英国 赤ちゃんの状態を、ラジオの天気予報が伝えた図の絵葉書

WAITING FOR AMERICA AND GETTING CHINA INSTEAD !



英国 アメリカの放送を待っていたら、代わりに中国(陶器)を受けた図の絵葉書